

杉並区町会連合会から被災地へ義援金

本日 15 日、杉並区町会連合会の藤枝宏友会長など役員 3 名が区役所を訪れ、熊本地震の被災地に対する義援金として、田中区長に約 500 万円が手渡されました。この義援金は、区から日本赤十字社を通じて、熊本地震で被災者支援に活用されます。

杉並区町会連合会は、157 の町会・自治会が加盟し、加入世帯数は約 15 万 2 千世帯となっています。町会の加入率は、減少傾向にあり町会の活動や必要性が、なかなか新たな転入者などに伝えられない悩みを抱えています。しかし、その一方で町会に対する期待も大きくなっています。

5 年前の東日本大震災、そして今年 4 月に発生した熊本地震。いずれも大きな被害が連日のようにニュースとして流れました。また、首都直下地震もいつ起こっても不思議ではないという状況の中、ご近所の力はかけがえの無いものです。杉並区も大都市東京の中にあつて、核家族化が進んでいます。保育園待機児童の問題が深刻化していますが、女性の社会進出とともに、核家族化も保育ニーズの高まりの原因になっています。こうした核家族化によって、高齢者世帯や障がい者世帯など、地域の中で孤立する方が増えています。町会では、このような世帯を日頃から訪問したり、防災・防犯のパトロールなどの活動を行っています。そのどれもが、相手を思いやる気持ちが基になっています。

杉並区町会連合会では、これまでも平成 17 年の東日本大震災では小千谷市へ、東日本大震災では南相馬市に義援金を贈ってきました。この 2 つの自治体は、いずれも杉並区の交流自治体でした。今回の熊本県の自治体とは直接の関係性はありませんが、熊本で家を失い避難所生活をする方々が少しでも早く元の生活に戻れるようにとの思いから、義援金を贈ることにしました。

15 日午前 11 時 30 分、杉並区町会連合会の藤枝宏友会長、秋山とよ副会長、大澤俊副会長が区役所を訪れ、熊本地震への義援金として、5,337,635 円の目録を田中良区長に手渡しました。藤枝会長は「少しでも被災者のお役に立てれば。」と話していました。

